

研究成果報告書

- ・機関及び学部、学科等名、富山国際大学現代社会学部 現代社会学科
- ・所属ゼミ 大谷孝行ゼミ
- ・指導教員 大谷孝行
- ・代表学生 五十嵐友輔
- ・参加学生 丸山晃樹、中村蓮、小田海登

【研究題目】

射水市新湊地域における空き家等の有効活用と賑わい創出プロジェクト

1. 課題解決策の要約

本研究では、新湊地域における空き家に対する問題を地域全体で共有し、住民たちに自分たちの暮らす街の現状を知り、よりよい街づくりについて深く考えてもらう場を今後作っていく必要があると考えている。また、活気ある街づくりのために、新湊地域に古くから残る祭りや歴史的町並み、食文化などの魅力を活かし、各町内の青年団や若者たちが中心となってそれらの継承と魅力発信を行い、賑わいの創出と町に活気を取り戻す。

2. 調査研究の目的

近年、全国的に空き家の増加が社会問題となっており、富山県も例外ではない。中でも射水市新湊地域は、空き家の増加が顕著でありそれに伴う人口減少、経済衰退が深刻化している。しかし、同地域には古くからの漁師町の景観や、曳山などの文化資産を多く保有しており、これらの利活用によって経済的、社会・文化的サステナビリティを両立させ、地域社会として全国に先駆けた地方創生のモデルケースを目指す。

本研究では、新湊地域在住で地元青年団所属の五十嵐友輔と同地域で伝統行事継承や魅力発信活動を行っている小田海登、丸山晃樹、中村蓮の4人が地域住民に空き家の状況や地域の魅力について聞き取り調査を行い、それらを踏まえて課題解決策を模索する。

3. 調査研究の内容

(1)射水市新湊地域について

射水市新湊地域は、富山県の北西部に位置する海沿いの地域で、古くから北前船交易や漁師町として栄えてきた。その繁栄の証として、絢爛豪華な13本の曳山や、かつての豪商や権力者たちが暮らしていた内蔵がある旧家や漁師たちの番屋などの歴史的建造物が今も数多く佇んでいる。同地域の中心部には「内川」と呼ばれる東西約1850メートルを結ぶ運河がある。内川は、海から海へとつながる全国的にも大変珍しい川で、漁師たちが漁船を係留させており、古くから漁師町新湊の生活には欠かせない運河である。また、歩行者専用で赤い屋根付きの橋として知られている「東橋」やステンドグラスが施された「神楽橋」などの趣向を凝らした11もの伝統的な橋が架けられ、その周辺に佇む歴史的町並みは、まさに日本の原風景でありどこか懐かしさをも感じさせてくれ「日本のベニス」とも呼ばれている。近年では、この内川を舞台とした映画やドラマの撮影が頻繁に行われ、多くのメディア等でも取り上げられており、聖地巡礼や内川の景観を一目見ようと多くの観光客が

訪れている。また、新湊といえば「まつん（祭り）」と言われるほど地域住民は祭りを愛し、5月の獅子舞と10月1日の新湊曳山まつりには情熱が注ぎ込まれ、町は祭り一色となる。これらの行事は古くから町の宝として大事に受け継がれており新湊地域の誇りでもある。人々はこの祭りを通して地域のつながりを感じている。その他にも全国的に、白エビやベニズワイガニなどの海産物が有名である。



写真1 内川と街並み



写真2 新湊曳山まつり

(2)新湊地域における空き家の現状と利用

今回の調査では、新湊地域の空き家の利活用の促進、内川周辺の街づくりや移住・定住をサポートしている、NPO法人「水辺のまち新湊」さんや実際に空き家をもっていられる方にお話を伺った。「水辺のまち新湊」の方によると新湊地域は、射水市内でも最も空き家の軒数が多い街であり、平成25年1月に射水市によって実施された調査資料によると射水市の空き家軒数は、3510戸／33,960戸で空き家率は10.3%であり、新湊地域はそのうちの6.8%を占めている。これは、富山県

内の中でも極めて高い比率である。

地域内の比率でみると放生津地区では荒屋本町自治会の地区で 35.6%、新湊地区では北長徳寺自治会の地区で 34.4%という高い比率で推移しており現在も増加傾向である。最近では内川周辺の奈呉町や新町でも著しく空き家が増えており、これらの空き家はほとんど手が付けられておらず、老朽化が激しいものも多く倒壊の恐れもでてきている。利用できない空き家を解体すればいいと言う声も多いが実際にはそう簡単にはいかないのが現実である。新湊地域の空き家は年数も古く敷地が狭く、住宅密集地で家が密集して建っていることが多い。

空き家を購入し、改装または解体し新築を建てるなどする際に、まずその空き家の持ち主を探さなくてはならない。ここで空き家の持ち主が亡くなっていたり権利者が地元になかったりする場合が多く、時間と費用が掛かり、買い手があきらめてしまうことが多い。その間にも空き家は増え続け最終的には利活用もできないくらいの形になるという悪循環が生まれてしまっている。

また、実際に空き家を所有している射水市中新湊に住む 80 歳代の方によると、空き家を解体したいのはやまやまであるが、新湊の慣例として解体する際に隣の家に壁がくっついている場合、その隣家の壁部分を解体者が負担することになり、建蔽率の関係から新築を建てる際は 60%の敷地しか使用できないという。こうした理由から解体もできず買い手もいないことから空き家を 10 年以上そのままにしているそうである。この状況は、新湊の空き家問題の一番の課題となっている。

しかし、近年では空き家を一資源として利活用する動きも高まっている。2016 年に新湊曳山まつりを題材とした映画「人生の約束」の公開以降、多くの観光客が訪れそれに伴い周辺の観光事業がより活発に行われるようになった。古民家を利用し同地域では乏しかった宿泊事業や食堂、カフェなどが次々にオープンし、ここ 10 年以内で 16 店舗もの空き家を利用した新規事業が内川周辺の新たな拠点として看板を掲げている。

2018 年に射水市八幡町でオープンした「bridge Bar」のオーナーであるハワイ州出身のステイブン・ナイトさんは、空き家の裏側の内川に面した部分を店舗として利用し、表部分を住居として活用しており新湊地域に定住した。また、NPO 法人「水辺のまち新湊」さんの取り組みで、1泊1人 1000 円で古民家の暮らしを体験できる事業も行われており移住・定住にも力を入れている。更には、まだまだ課題はあるが、空き家を求めている方への情報発信も行われている。

自治会調査	空き家数
H23	1,352 戸
H28	1,538 戸
差	186 戸

表 1 出典：射水市空き家実態調査

空き家数： 3510 戸 / 33,960 戸	空き家率： 10.3%
-------------------------	-------------

表 2 〈平成 20 年住宅・土地統計調査（射水市）〉

	家屋数	空き家数（登録済み）	空き家率
奈呉町	101	15	14.9%
古新町東部	66	9	13.6%
古新町中部	120	34	28.3%
古新町西部	153	51	33.3%
北長徳寺	160	55	34.4%

庄東区	233	53	22.7%
新富町	288	38	13.2%
南長徳寺	379	29	7.7%
三日曾根	205	10	4.9%
西新町	83	13	15.7%
東新町	87	19	21.8%
四日曾根	169	29	17.2%
計	2,044	355	17.4%

表3 〈空き家実態調査 新湊地区（2018年6月）提供：NPO法人水辺のまち新湊〉

	家屋数	空き家数（登録 済）	空き家 率
神保寺	156	26	16.7%
荒屋東部	104	19	18.3%
荒屋本町	135	48	35.6%
東町東部	184	19	10.3%
東町西部	49	15	30.6%
天神町	28	13	46.4%
倉屋敷	25	3	12.0%
四十物町	60	17	28.3%
山王町	31	1	3.2%
中町	78	0	0.0%
獅子絵田	136	35	25.7%
紺屋町	20	0	0.0%
立町	49	1	2.0%
菊屋町	16	3	18.8%
西立町	36	9	25.0%
南立町	71	13	18.3%
法土寺町	57	7	12.3%
二の丸町	207	27	13.0%
二の丸本町	69	10	14.5%
江柱1区	65	14	21.5%
江柱2区	82	11	13.4%
江柱3区	111	23	20.7%
越の潟町	データなし	データなし	・・・ ・
計	1,769	314	17.8%

表4 〈空き家実態調査 放生津地区（平成28年6月）提供：NPO法人水辺のまち新湊〉



写真3 射水市港町に佇む空き家

(3)新湊地域魅力調査と魅力発信イベント

2020年5月、6月、12月の活動は新型コロナウイルス感染拡大の影響により全面中止、7月以降社会活動の再開により聞き取り調査を一部で開始した。11月14日、15日には、新湊地域の交流拠点である「クロスベイ新湊」及び「川の駅新湊」で行われたアフターコロナイベントにて、住民の方に新湊の魅力創出に関する聞き取りを行なった。この調査では、参加学生4人の他に地元青年団の方が2名協力してくださった。調査の内容としては、イベント来場者の方10代から80代までの112人に、①あなたが思う新湊地域の魅力、②空き家の利活用状況と今後どのような活用方法が求められているのか、③今後の新湊の賑わい創出や活性化などに求められること、の3項目の質問に対してご意見を伺った。

①の質問に対しての意見として内川や海王丸パークなどの観光地が挙げられたが、7割以上の方が新湊曳山まつりや獅子舞など、祭りという回答であった。老若男女問わず口を揃えて言うのは「新湊といえばまつりしかない」。40代の祭り参加者の方は、「祭りは地域の宝でありこの街の財産でなによりもの魅力である。祭りがあるからこの街に住みたいと思う」と清々しい表情で語っていらした。改めて新湊の住民たちが祭りに懸ける熱い思いを認識することができた。

②に対しては、カフェや居酒屋、娯楽施設など様々な意見があったが、中でも宿泊施設が少ないので空き家を利用とした古民家ホテルや民宿を充実させてほしいとの意見が多くみられた。映画やドラマの影響で観光客が多く訪れているが、宿泊施設は、地域内にホテルが一つあるのみである。そのため、曳山祭りや大きなイベントとなると訪れた方が泊まる場所がなく市外の宿泊施設に宿泊している。宿泊施設や休憩所の充実が図られれば、新湊地域における観光の在り方もより良いものとなるのではないかという意見も寄せられた。

③は、新湊地域における今後のまちづくりの在り方と賑わいの創出について様々な意見を頂いたが、ここでは「若者」というキーワードが多く挙げられた。

「若者が町に残ってほしい」

「若者が新湊の街に移住してほしい」

「地域に住む若者たちがイベントを企画して街づくりについて考えてもらいたい」

など、若者たちに期待を寄せる意見が多く挙げられた。また、かつて新湊地域では各町内にあった青年団が地域の行事や問題等に取り組んでいたが、人口減少に伴い青年団が廃止される町内も増えている。若い世代がもっと自分たちの街について知り、そして愛し自分たちの街を守るために活動してほしいという意見もあった。街の大人たちは、若者たちが思っている以上にこの街の将来を託し期待していることが強く感じられた。



写真4 クロスベイ新湊にて調査を行うプロジェクトチーム（2020/11.15）

4. 調査研究の成果

これらの意見も踏まえ、本来であれば2021年1月に、実際に空き家を利活用した飲食店や、新湊地域の各青年団が空き家の利活用や新湊の魅力を発信する魅力発信事業イベントを企画し実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からやむを得ず取りやめとした。

しかし、各青年団及び地域住人や市内外の112人の方から街づくり活動や賑わい創出に関して貴重なご意見をいただけたことは、新湊地域の街づくり活動ではかつてなかったことである。誰もレジャーランドや高層ビルの誘致による街の活性化などは求めている。地域の財産を守り、地域を愛し、人と人のつながりを大事にしてきた新湊ならではの街づくりが求められていることを再認識した。また、祭りを通して地域の魅力を創出し、ふるさとを愛し若者たちで地域を守ろうと、近隣の伏木地区の若者と意見交換会「新湊地区・伏木地区青年交流会」を立ち上げ、富山県内全体でもこの活動を広げていくために2020年11月1日に「越中祭青年会」を発足させたことも付け加えておく。

5. 調査研究に基づく提言

研究に基づく提言として、空き家の利活用や魅力創出イベント等は少しずつ行われているが、事業者や主催者の考え方・希望と住民の意見とのずれが生じている点がある。行政機関、民間企業が地域住民と今以上に意見交換・共有を行ない地域住民の思いや願いを取り入れ、新湊ならではの街づくりモデルや魅力発信を考えていかななくてはならない。

6. 課題解決策の自己評価

2018年より新湊地域の街づくりや伝統行事継承の在り方など、地域の将来に関する調査研究を数々行ってきた。2020年3月に本研究の採択をいただいた際は、大変うれしく感無量であった。少しでも新湊地域のために何かできることをしたいと考えていたが、新型コロナウイルスの影響によって、本研究の調査及び活動が、このように道半ばで行き詰ってしまったことは、自分にとって大変残念であり悔しかった。なによりも調査及びこれまでの活動にご尽力いただいた新湊地域の関係各位の皆様大変申し訳ない思いである。

空き家の利活用にばかりに焦点を置き、街の人々が切に願う人とのつながりを大切にしたい街づくりの在り方に気づくことができず、コロナに翻弄され先読みできなかった自分が不甲斐ない。そんな自分たちに対して、街の方々は「若いもんようがんばっとんの」と声をかけていただき、「若いもんのために」と様々な場面で協力していただいた。改めてこの「新湊」という町の方々の人情という何よりもの魅力に気づかされたのである。

今回はこのような形に終わったが、この調査研究の過程は、自分たちの人生の中で大きな経験であり、今後も新湊賑わい創出プロジェクトチーム、新湊地域の青年団員としてサステナブルな街づ

くりを目指し活動を継続していく。新湊地域のさらなる発展及び空き家事業の活性化、文化財の継承等に尽力していく所存であり、それは新湊地域に住む若者としての使命であると感じている。